

## 先進地（現地）調査報告書

平成 30 年 3 月 30 日

玉名市議会

議長 中尾 嘉男 様

氏名 多田 隈 啓二



下記のとおり、先進地（現地）調査を行いましたので報告します。

調査議員	多田隈 啓二 北本 将 幸 吉田 憲 司 吉田 真樹子
日 時	平成 30 年 2 月 7 日（水）～ 午後 1 時 30 分 ～ 午後 3 時 30 分
調 査 先	大阪府 大東市
調 査 事 項	介護予防・日常生活支援総合事業の取り組みについて
調査先面会者	大東市 地方創生局 兼 保健医療部 高齢介護室 課長参事（理学療法士） <span style="background-color: black; color: black;">XXXXXXXXXX</span>
概要及び所見	<p>大東市は大阪府の東部、河内地方のほぼ中央に位置する、人口は、122461 人（世帯数 55756）のベッドタウンです。東西 7.5km、南北に 4.1km で、総面積は 18.27km<sup>2</sup> である。豊かな自然が息づく「金剛生駒紀泉国定公園」を含む山間部が 3 分の 1 を占め、西部には、標高 3m 以下の平野部が広がり、高齢化率 26.32%（32046 人）の市である。</p> <p>今回は、玉名市においても現在の課題となっている、介護予防・日常生活支援、総合事業の取り組みについて大東市の研修をした。</p> <p>大東市のお住いの高齢者がいつでも生き生きと元気に生活が続けられるように思いから、「大東元気でまっせ体操」大東市役所の理学療法士、作業療法士たちリハビリテーションの専門職を中心としたメンバーで作成された大東市オリジナル健康体操をされていた。体操のコンセプトは「75 歳以上の高齢者でも気軽に安心できるラジオ体操です」。体操をすることで、より元気になって、若返っていただき、介護保険を使わないことで、自己負担も支払わなくていい「効きまっせ！若うなりまっせ！儲かりまっせ！」の</p>

3 拍子そろったキャッチコピーで、大東市内の各地で体操の普及を行っていた。週 1 以上実施している団体 108 箇所、約 2100 名実施されていて、月 3 回以上の団体には半年に 1 度体力測定を行っていて、体操の継続者は年々体力の向上するデータがあった。元気でまって体操では「立って」「椅子に座って」「寝て」する 3 パターンがあり、いつでも誰でも始められる体操でした。地域づくりによる介護予防として、住民主体で自治会・老人クラブ・校区福祉委員会・自主グループ等の地域団体が担い手となって活動されていた。

総合事業の取り組みで生み出された財源は、平成 28 年度で 1 億 3 千万円の介護給付削減、また平成 29 年度には最低でも 2 億 5 千万円は削減効果が見込まれるとのことでした。

玉名市でも今後高齢者の割合が増加する一方で、支えて手となる世代の人数は減少すると推測されるため、高齢者が住み慣れた町でいつまでも安心して生活を送るには、全世代での見守りや支援が必要だと思う。また、住民主体の通いの場の事業を推進していかなければならないと感じた。

## 先進地（現地）調査報告書

平成 30 年 3 月 30 日

玉名市議会

議長 中尾 嘉男 様

氏名 多田 隈 啓二



下記のとおり、先進地（現地）調査を行いましたので報告します。

調査議員	多田隈 啓二 北本 将幸 吉田 憲司 吉田 真樹子
日時	平成 30 年 2 月 8 日（木）～平成 30 年 2 月 8 日（木） 午後 1 時 00 分 ～ 午後 3 時 00 分
調査先	山口県山口市
調査事項	公共交通政策について
調査先面会者	山口市都市政策部 交通政策課 交通政策担当副参事 岩本誠治氏 議会事務局長 <span style="background-color: black; color: black;">XXXXXXXXXX</span> 議会事務局
概要及び所見	<p>山口市は、山口県の中央部に位置し、南は瀬戸内海に面し、東は防府市、周南市、西は美祢市、北は萩市、さらに島根県津和野町、吉賀町に接している。山口市の地勢は北部の山地から、旧山口市は榎野川が、徳地地区は佐波川が、盆地、南部の臨海平野を経て瀬戸内海に流れ込み、阿東地区は阿武川「名勝長門狭」を経て、萩市より日本海に注いでいる。また、広域交通網が東西南北に走り、県内の主要な都市に 1 時間以内で移動できるとともに、高速自動車道や山陽新幹線、山口宇部空港といった高速交通網との接続の便もよく、広域交流の拠点としての優位性を有している。</p> <p>今回玉名市においても、現在課題となっている、山口市の公共交通政策の取り組みについて研修した。</p> <p>山口市は、H17.10 に 1 市 4 町合併された。当時の課題として、持続可能なまちづくりへの政策転換のなかで、行政主体バス運行について移動手段のない地域住民から不公平感との不満があり、わが地域にもコミュニティバス導入の声があがった。そこで、山</p>

口市交通まちづくり委員会を設置し、計画の検討段階から市民とともに考えていく必要があると考え、市を11ブロックに分けて、地域検討会が開催され、「創ろう！守ろう！みんなの公共交通」をスローガンに、山口市市民公共交通計画を平成19年9月に策定され、翌平成20年3月に山口市地域公共交通総合連携計画が策定された。

基本理念として、～子や孫の代まで続く公共交通にしよう～創ろう！守ろう！みんなの公共交通として、市民誰もがいきいきと安心して住み続けられるよう、市民・事業者・行政が協同して持続的な公共交通を創り守ることにより、車に頼りすぎない交通まちづくりを目指された。

市民生活と都市活動を支える公共交通の確立として、地域内での移動は、市民の日常生活を支える持続可能な地域交通を整えられた。街中移動は、求心力を高め街の活力を創出する都市交通を整えられた。広域的移動は、交流を広げ都市の発展を支える、広域交通の整備を目標に、みんなが協同して創り育てる、みんなが主体となってそれぞれの役割を果たし、市民の移動手段は、「行政が確保する」といったこれまでの考え方を見直し、「みんなで創り育てる」といった姿勢のもとで取り組まれていた。

玉名市においても、人口密度が低く、高齢化が進む交通不便地域に住む交通弱者に対し、行政主導の公共交通ではなく、地域の移動手段は、地域の事情を一番知っている地域が主体となり、地域運営組織や交通事業者と行政とともに、みんなが協働して創り育てることが大切だと感じた。

また、市民誰もが生き生きと安心して住み続けられるよう、持続的な玉名らしい公共交通を確立することも大事だと感じた。